

## 5. みんなでワイワイ話そう - II

### これからの種苗生産技術開発(パネルディスカッション)

(趣旨)

養殖用の種苗生産には解決しなければならない多くの課題が残されています。親魚養成条件と卵質の向上、養殖に適した品種の作出、作出品種の自然界への逸散防止などの管理手法の開発、作出品種の社会的認知、仔稚魚の成長・発育と生理的機能の発達過程、仔稚魚の栄養要求、生物餌料の培養と栄養強化、生物餌料二次培養用飼料への代替タンパクの使用、初期飼育用配合飼料への代替タンパクの使用、仔稚魚飼育と物理化学的環境条件の関係、種苗生産施設から周辺環境への負荷の低減、排水処理、循環飼育技術、これらにかかわる飼育設備、医薬品の使用制限と疾病対策、トレーサビリティへの対応、新魚種開発、外国産魚種の導入、外国産種苗・中間魚の輸入など思いつくままに数え上げてもきりがありません。これらの課題への取り組みは、これまでは、主として公的な試験研究機関で取り組むべき課題と考えられてきました。しかし、目の前にあるそれぞれが現実の課題の解決のためには、公的試験研究機関の研究・技術開発成果だけを発つだけでよいのでしょうか。これからは、これまでの枠組みにとられない問題解決の方法を考え出さなければならないのではないのでしょうか。

このパネル討論は、養殖用種苗生産業界が抱える課題の解決方法を見出すための最初の試みです。(伏見 浩)

司 会： 佐藤秀一（東京海洋大学）・伏見 浩

パネラー：

笠岡 成樹	(株式会社ヨンキュウ)
越塩 俊介	(鹿児島大学)
峯元 陽一	(松浦水産株式会社)
吉川 喜代治	(有限会社吉川水産)
津田 淳	(有限会社まる阿水産)

(あいうえお順)